平塚柔道物語４６

柔道卒業証書と生徒の活躍

平塚柔道協会　会長　奥山　晴治

教師の真心と期待をこめた言葉は、生徒にとっても将来の宝物となるものである。私はそこで一冊のノートを思い出す。私が小学校を卒業する時に先生に書いていただいたノートである。それは次のように書いてあった。

「ご卒業おめでとう。栄えある今日の喜びを心に秘めて明日からの日々にいそしんで下さい。ふだんはおとなしく勉強家のあなたが、お相撲をやればあっと思うほどの力を出すのに先生は目を見はったことがあります。がんばりの強いあなたは、その素質と努力に物をいわせてきっと立派な生活を続けられることでしょう。苦難に負けない強さをいつも持って進んで下さい。つめたい霜や雪に耐えてぐんぐん伸びる麦のように・・・。ご健康を祈ります。さようならお別れの日に・・・千葉」と記してあった。

私は非常に感動した。その頃の私は臆病な性格で体も弱かった。そのため心身ともに強くなりたいと相撲や柔道に熱中していた時であったがゆえに、私の最も意図する所を見ていてくれたという感動が私の体をつらぬいた。そして先生の期待に応える人間になろうと子供ながら決意したものである。そして、自分の壁にぶつかった時に、このノートにどれだけ励まされたものか。もしも私が将来、教師になったとしたら、このような言葉をもって激励したいと思った。

そういった私の思いをまさに実践していた教師が、私の身近なところにいたのである。それは、平塚柔道協会・理事・少年部総括指導者・浜岳中学校柔道部顧問の真田州二郎教師である。彼は、毎年卒業する生徒の中で柔道部で三年間頑張って来た部員に、柔道の卒業証書を自分で作り渡している。平成２３年に卒業した佐藤裕介君の証書を紹介しよう。

「あなたは平塚市立浜岳中学校柔道部副主将として日々の練習を熱心に行い、妥協無く頑張る姿勢でチームを引っ張ることができました。小学生の頃からモチベーションが高く、試合の度に小学生ながら柔道ノートを持って来ていました。中学校に入り、二年生で個人戦で関東大会に出場すると、そこからは不動の団体戦先鋒としてチームを引っ張ってくれました。三年で出場した関東大会では、全中優勝の国士舘の二回り以上大きい選手を相手に、開始早々に背負いで投げ、チームを後一歩まで追い込むことが出来たあの名勝負はこれからも語り継がれることと思います。個人戦では県大会も関東大会も優勝する力があったにもかかわらず、ほんのわずかなミスで負けてしまい、どちらも三位で終わってしまいました。高校では県大会、関東大会の悔しさを忘れず、中学時代為し得なかった日本一を目指し、更に成長して下さい。年間三百日を超える練習を三年間通して頑張り続け、計九百日にわたる修行を終了したことをここに証します」とあった。

彼は小学生から柔道をこの協会で始め、体は小さいが負けん気の強さと多彩な技、そして試合運びは、誰も真似できない素質をもっていた。今年３月１９日、日本武道館で行われた全国高校柔道大会で、群馬県を代表して出場、６０ｋｇ級、前橋育英高校一年生でありながら三回戦まで勝ち抜いている。今後が楽しみな選手である。

卒業後、活躍している多くの生徒たちを見るにつけ、真田教師の卒業証書が私と同様一人一人の心のバネになっているように私は思う。

平成２２年８月市長室
一番左側が佐藤裕介君後ろ隣りが真田教師